

紫峰の風

shihou no kaze

筑波大学

University of Tsukuba

第19号 2021年2月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められています。



写真左上から：研修会用種目ドッジボール／学生委員会での運営指導の様子／
研修会用種目：リレー／研修会用種目：アルティメット2020(令和2)年11月15日撮影

スポーツ・デー学生委員会研修会を終えて

皆様こんにちは。第44代スポーツ・デー学生委員会委員長の寺嶋仁志です。今年度はコロナウイルスの影響により、春秋ともにスポーツ・デーを開催することができませんでした。そのため、次年度の運営が円滑に行えるように、11月15日にスポーツ・デー学生委員会内での運営研修会を行いました。

ドッジボールやリレーなどの種目をスポーツ・デー同様に企画・運営をし、当日は2・3年生19名に対し、1年生は45人も参加しました。小さい規模ではありましたがとても有意義な研修となりました。

予定通りに事が進まず、非常にづらい思いをした1年間でした。そのような中で、多くの方々にご支援・ご協力していただいたことで、第44代スポーツ・デー学生委員会を締めくくれたことには本当に感謝

しています。誠にありがとうございました。
私の任期はこれで終了となります。後輩たちにはスポーツ・デーの更なる発展のため、努めてほしいと思います。今後とも変わらぬご支援よろしくお願いいたします。
(寄稿/第44代スポーツ・デー学生委員会委員長 寺嶋仁志・数学3年)

今後の主な予定(変更になる場合があります)

春季休業	2月17日～4月4日
同(東京キャンパス・夜間)	2月4日～4月5日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月27日
入学式	4月5日
同(東京キャンパス・夜間)	4月3日
新入生歓迎本祭	4月5日
新入生オリエンテーション(学群)	4月5日～7日
新入生オリエンテーション(大学院)	4月5、6日
同(東京キャンパス・夜間)	4月3日
授業開始(学群)	4月8日
授業開始(大学院)	4月7日
同(東京キャンパス・夜間)	4月6日
春季スポーツ・デー	5月15、16日(予定)

-内容-	
キャンパスニュース	1、2頁
1年間を振り返って	3頁
全代会、文サ連、芸サ連、体育会活動紹介	4頁
留学情報	5頁
大学院進学報告	6頁
課外活動団体一覧	7頁
学生相談室から、卒業式・入学式のご案内	
桐の葉日記	8頁

筑波大学紫峰会基金に寄附して下さった皆さまへ

皆さまからいただいたご寄附の全額を課外活動団体援助金等として、使用させていただいております。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をさらに充実することができました、大変感謝しております。

今後も我々の活動を見守ってください。

課外活動団体一同

キャンパスニュース

リーダー研修会

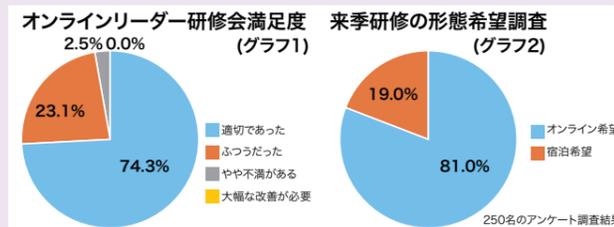
毎年、リーダー研修会実行委員会では所属サークルを支えている文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会および学生生活課(課外・研修施設担当、紫峰会業務推進室)の役割を知ってもらおうと同時にその交流を図るため、赤城山の研修施設にて一泊二日でリーダー研修会を実施しています。

しかしながら今年度はコロナ禍に鑑み、急遽筑波大学のmanabaというツールを用いたオンラインでの実施としました。オンラインリーダー研修会では例年通り講師を招き、コミュニケーションについての講義を行っていただき、また、各系において資料をオンデマンド型で掲載し、その研修を行いました。

また、オンラインにおける学業、課外活動の実施状況を調査し、その対策や意見を共有できるようにアンケートを参加学生250人に回答していただきました。リーダー研修会のオンライン化は多くの労力を要しましたが、肯定的な意見は95%以上を占め(グラフ1)、たくさんのご助力もあって無事完遂したと思っています。留意したいのはオンライン化に伴い、その研修としての機能を引き継げたのか、また、来年度からどのような形態で実施していくのかといった点であると思います。確認しておくべきことはリーダー研修会は学生の自主性により成り立つということです。つまり、学生の満足度をもっとも重視すべき点であると考えています。

今年度は宿泊計画から急遽オンライン化に踏み切る形となりましたが、来年度以降も感染症対策、予算の面などでリーダー研修会の在り方を考え直していく必要があると考えています。そのうえで本年度のオンラインでの実施は予算面では大幅に削減が可能となり、感染症対策を考慮して非常に有効な手段であると思います。来年度もオンラインにおける実施を望む声は多く(グラフ2)、その在り方を引き続き検討していきたいと思っています。

(寄稿/2020年度課外活動団体リーダー研修会実行委員会実行委員長 林利有樹 資源2年)



2020年筑波大学体育会納会を終えて(動画配信)



第45代体育会執行委員会委員長 則安克美 2020(令和2)年12月23日撮影

第45代体育会執行委員会委員長の則安克美と申します。例年であれば筑波大学体育会の各団体の代表者や、先生方が一堂に会し、盛大に行われるはずであった筑波大学体育会納会でしたが、今年は新型コロナウイルスの影響で動画配信という形で行う運びとなりました。これはコロナ禍である現状では他人との接触をなるべく避けて人との関わりを避けることを求められているためです。

しかし同時に、我々体育会執行委員は団体の皆様に信頼していただけるような組織であらねばなりません。信頼を得るのに対面での交流は重要な要素である分、この二律背反な状況を打開できるよう第45代体育会執行委員会一丸となって取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(寄稿/第45代体育会執行委員会委員長 則安克美・エシス3年)

平砂アートムーヴメント

「平砂アートムーヴメント」とは筑波大学の有志学生により企画・運営されている活動です。使われなくなった空間にアートを展開し、制作者と鑑賞者との関わり合いを通して新しい発見をもたらすことで、アート活動の活性化を図ることを目的としており、昨年度は平砂学生宿舎にて美術展が開催されました。

昨年から今年に渡る「平砂アートムーヴメント2020」では、つくば市において有名なスコティッシュパブ「フィンラガン」が「市民がアートに触れる機会を作りたい」という思いのもと、つくばセンター広場に出張開店するのに合わせてアートを通して人々の交流のきっかけを作るために、つくばセンター周辺の空間で様々な活動が展開されています。昨年の10月～12月にはワークショップなどのイベントが行われ、さらに今年の1月～2月には、つくばセンタービルの空き店舗にて募集したアーティストによる公開作品の制作、そして3月には同空き店舗において美術展の開催が予定されています。オンライン化が進み、人との繋がりが薄れる昨今において、身近な場所でアートに触れ、人と交流することの意義は大きいのではないのでしょうか。是非足を運んでいただき、各種SNSやHPでのイベントレポート・活動紹介についてもご覧になってみてください。

(Twitter: <https://twitter.com/hamhamham2019>)
(取材/芸サ連広報局長 高見沢仙美・応理3年)



写真左上から：生大会の様子2020(令和2)年11月1日撮影/ディレクター陣のトークイベント2020(令和2)年10月25日撮影/「ゴブリン」の公開制作2020(令和2)年11月7日撮影/角材を組み上げるパフォーマンス2020(令和2)年11月15日撮影

筑波大学体育会納会は、体育会の1年間を締めくくる行事として国際会議場や学生会館等の会場にて多くの来賓の方々を招待し開催されています。

そんな筑波大学体育会納会では、1年間の間に全国大会または国際大会において優秀な成績を収めた団体、個人へ贈られる筑波大学体育会賞の授与式も行われます。

今回は、先に行われました2020年体育会納会において筑波大学体育会賞を個人の部で受賞された皆様をご紹介します。



陸上競技部 浅井さくら

陸上競技部 高良彩花

オリエンテーリング部 佐野響



オリエンテーリング部 小牧弘季

体操競技部 橋汐芽

硬式庭球部 川出莉子 阿部宏美

留学情報

グローバル・コモンス機構
学生部 学生交流課

本学は開学以来、「開かれた大学」という理念のもとに、年間4,000人以上の留学生等を受け入れ、2,300人以上の学生を海外へ派遣するなど、国際交流を積極的に促進してきました。また、本学のミッションとして「地球規模課題の解決に向けた知の創造とそれを牽引するグローバル人材の育成」を掲げており、一層のグローバル化が望まれております。しかしながら、2020年3月に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外務省の発出する危険情報レベルが世界的に2もしくは3に引き上げられて以降現在まで、本学では、学生の留学を認めておりません。本学の「海外での危機発生時における学生及び教職員の渡航等に関する指針」では、学生の安全と安心が保証されることを第一としており、学生の派遣・渡航は危険情報レベル2以上の場合、取り止めることとなっています。

この世界的流行はいつ収束するのか、見通しが立たない中でも留学をあきらめず努力をしている学生が多くいます。収束後、本学ではどのような留学が可能なのか、留学制度について簡単にご紹介します。

○留学とは・・・留学先の大学等の授業を履修することが学生にとって教育上有益であると、当該教育組織が判断した場合に認められるもので、その期間は修業年限及び在学年限に算入することができます。

【奨学金の種類】

○筑波大学海外留学支援事業 はばたけ！筑大生

①国際交流協定校留学支援プログラム

本学と協定校との協定に基づき留学をする者を対象に、滞在費の一部を支援

②キャンパスインキャンパス(CiC)等支援プログラム

CiCパートナー大学との交換留学を行う学生及びダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム等へ参加する学生を対象に、旅費・滞在費の一部を支援

③海外武者修行支援プログラム

任意結成された学生グループを対象に、企画内容に応じて旅費の一部を支援

④海外学会等参加支援プログラム

海外での国際学会、シンポジウム等で研究発表を行う者を対象に、旅費の一部を支援

⑤語学研修・海外研修参加支援プログラム

支援対象として採用された本学内組織主催又は共催による海外研修プログラムに参加する者を対象に、旅費の一部を支援

○日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定派遣）

JASSOに採択された教育組織等が実施するプログラムにて、8日以上1年以内の期間で協定校に派遣される学生に対し、旅費・滞在費の一部を支援

本学が目指すグローバル人材は、「確固たるアイデンティティと十分な専門性を持ちながら、多様性を生かす柔軟性を発揮し、あらゆる国、組織や分野の壁を越え、協力関係を構築し、グローバルな活動を牽引できる人材」です。新型コロナウイルス感染症による影響は多大であり、開学以来、これほど学生の国際交流の先行きが見えないことはなかったでしょう。しかし、今すぐには実現できずとも、在学中に国際交流プログラムや長期留学にチャレンジして、グローバル社会に貢献できる能力を身に付けていただきたいという思いは変わりません。そのためのサポートを引き続き行っていきます。

○交換留学・・・本学と学生交流協定を結んでいる海外の大学(以下、「協定校」)に留学することを「交換留学」と呼びます。授業料相互不徴収の取り決めがある協定校では、留学先大学への授業料は不徴収となるメリットがあります。

○Campus-in-Campus(CiC)・・・本学では、キャンパス機能を共有し、国境や機関の壁を越えて学生・教職員がより自由に交流できるCiC協定を世界各地の10校と締結しています。協定校と同様に授業料相互不徴収の取り決めがあります。

○短期海外研修・・・語学研修や専門講義の受講など、教育組織等が実施する多様な海外研修プログラムに参加できます。留学期間は1週間から1か月程度のもので多く、長期留学の契機となる学生も多くいます。

本学には留学促進のための奨学金制度があり、海外留学支援事業(はばたけ！筑大生)では、例年12月と4月に公募を実施しています。2021(令和3)年度に渡航するための12月期公募については、渡航時期までに留学先地域の危険情報レベルが1以下になっていることや安心して留学生在活を送れる環境が整備・維持されること等を条件に実施されました。今後の募集等についても、感染症拡大の世界的状況に応じて判断されることとなります。

大学院進学報告



生命環境学群 生物資源学類 4年 神永優作

本稿では私が大学院に進学することとした理由とともに、試験を受けるにあたってについてお話しします。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム

理工情報生命学術院／生命地球科学研究群／生物資源科学学位プログラム

■大学院進学の理由

育種学という学問をご存知でしょうか。最近話題となっているゲノム編集も新しい育種方法の一種で、育種学とは文字通り種(品種)を育成し、より人間が望む栽培作物を作出することを目的とした学問です。私は育種学が遺伝学の知識や育種技術を基盤に様々な農業上の問題にアプローチできることに魅力を感じ、育種学を専攻することに決めました。私が大学院への進学を決めた理由としてこの分野に興味があることと、自分自身のスキルや教養をレベルアップしたいからということが挙げられます。

大学院では現在も材料としているソバについて耐湿性(過湿状態でも植物の生育に障害が起きない性質)について研究を進め、より現場で応用できる形につなげたいと考えています。



情報学群 知識情報・図書館学類 4年 山岸素子

本稿では私が大学院に進学することとした理由とともに、試験を受けるにあたって、研究活動を通して学んだことについてお話しします。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム

人間総合科学学術院／人間総合科学研究群／情報学学位プログラム

■大学院進学の理由

司書という職業あるいは資格にどのような印象を持たれているでしょうか。図書館のカウンターで貸出しをしたりしていて、本が好きな人だろう、という方が多いかもしれません。

たしかに私が司書に親しみを持ってこの学類に入学したきっかけは読書が好きであることですが、実際には蔵書を検索するシステムの構築や行政・法律なども幅広く学びました。そのなかで私は実務に近いものよりも図書館の建築的要素や現代の図書館の在り方に興味を持って、研究を継続したいと思い、進学を選びました。その過程では、活発な研究室の活動と国際学会に参加した経験が大きな刺激となりました。

■試験を受けるにあたって

今年度は新型コロナウイルスの影響で試験日程さえも不透明な状況でした。最終的に試験日は二ヶ月近く延期され、オンラインでの面接となりました。しかし、延期されたことで自分の研究テーマがしっかりと定まった状態で準備することができました。また、通常なら何時間前にも集合となりますが、オンラインでの面接は直前まで自分の緊張をほぐすことができ、私にとってはメリットが大きかったです。

■試験を受けるにあたって

今年度は新型コロナウイルスの影響で大学院試験や必要な外部語学試験が予定通りに行われませんでした。そのような先行きが不透明な状況で大きな試験の準備を行うことは大変で常に無事に試験を受けられるのだろうかという不安が付きまといました。そんな中自分の助けとなったのは所属している鹿島神流武道部のオンラインでの稽古やコミュニケーションです。コロナ禍で物理的に孤立している中、所属しているコミュニティの価値を再確認いたしました。このような助けもあって大学院試験や外部語学試験への準備も十分に行うことができ、試験の日程や実施予定が確定してからは安心して試験を受ける事が出来ました。進学後も新型コロナウイルスの影響があると思いますが、適切な用意を行い自律して積極的に大学院での学びや社会人に向けての準備を行っていきたくと考えています。



研究対象のソバを育てている圃場の様子 2020(令和2)年9月撮影

試験準備は、研究室の先生・先輩方や他の研究室の先生にも見ていただいて、徹底的に対策しました。そうしたやり取りも基本的にはオンラインでしたが、必要な際には研究室に行き、休憩時のコミュニケーションや励ましによって精神的にも支えられました。些細な心理的負担の軽減はやはりオンラインでは難しい点だと思えます。

■研究活動を通して学んだこと

研究はひとりではできないということと自分を強く持つことです。卒業研究や進学後の研究計画など、私にとってははじめての研究活動であるなかで研究室の先生・先輩方の存在は非常に大きいものでした。私は万全の準備をしないと不安になってしまうのですが、完璧な研究はなく、唯一の正解もありません。常に不安と闘う状況で、ベストではなくてもベターであれば先に進むというのも大切だと思いました。

同時に、多くのアドバイスをすべて飲み込もうとすると道に迷います。自分の研究は自分のものだという意識を維持していなければなりません。これでいいのかと問い続けながらも、自分のものだと思えることは難しいですが、研究だけでなく何事においても聞く耳を持ちながら揺るがない自分を築けるようにこれからも精進していきたいと思っています。



国際学会発表の様子 2020(令和2)年1月22日撮影

